

## 決算の概要について

学校法人二階堂学園の令和4年度決算は、監事および公認会計士の監査を経て、5月30日の理事会において承認され、評議員会で報告いたしました。

### 資金収支計算書について

#### 【収入の部】

- ① 学生生徒等納付金収入  
大学で、学費未納による除籍者が見込みより少なかったため、「学生生徒納付金収入」全体では予算と比較して600万円強増加し、決算額は30億6,000万円強となりました。
- ② 手数料収入  
大学と我孫子高校の志願者数が補正予算編成時の見込みよりも少なかったため、入学検定料収入が減少となり、「手数料収入」全体で800万円強減少し、決算額は4,900万円強となりました。
- ③ 寄付金収入  
創立100周年記念募金で、寄付金額が補正予算編成時の見込みよりも少なかったことにより、予算額と比較して3,000万円強減少し、決算額は3,900万円強となりました。
- ④ 補助金収入  
補正予算積算時に、大学の経常費補助金、附属保育園の運営助成金を低めに見積もっていたこと、光熱費や物価高騰対策の補助金が臨時的に交付されたことにより、「補助金収入」全体で2,800万円強増加し、決算額は10億9,500万円強となりました。
- ⑤ 付随事業・収益事業収入  
みどり幼稚園で体操教室収入の一部予算計上漏れがあったこと、みどり幼稚園と二階堂幼稚園で預り保育収入が増えたことにより、全体では300万円強増加し、決算額は1億9,900万円強となりました。
- ⑥ 受取利息・配当金収入  
補正予算積算時に、受取利息・配当金を低めに見積もっていたため、800万円強の増加となり、決算額は1億1,400万円強となりました。
- ⑦ 雑収入  
補正予算編成後に複数名の任意退職者が生じたため、各退職団体からの交付金収入が増加となり、「雑収入」全体で5,800万円強増加し、決算額は2億5,000万円強となりました。
- ⑧ 借入金等収入  
附属高校の入学支度金利用希望者が少なかったため、300万円強減少して、決算額は25億円強となりました。
- ⑨ 前受金収入  
大学の在学生（新2年から4年生）の令和5年度納付金納入者が見込みより多かったため、6,900万円強増加し、決算額は10億500万円強となりました。
- ⑩ その他の収入  
預り金収入（純額表示）が、補正予算積算時と比較して減少しましたが、減価償却引当特定資産で繰上償還があったこと等により、その他の収入全体では3,000万円強増加して、決算額は17億6,800万円強となりました。
- ⑪ 資金収入調整勘定  
補正予算時の見込みよりも増加した、各退職団体からの交付金収入が未収入金になったこと、大学で研究設備整備費等補助金、我孫子高校で施設整備費補助金等の未収入金があったこと等により、期末未収入金が増加したため、予算と比較して2億8,000万円強増加し、決算額は

△14億2,400万円強となりました。

#### 【支出の部】

##### ① 人件費支出

教員人件費で、復職を見込んでいた育児休業中の教員1名の復職が延びたこと、職員人件費では、大学の学生アルバイトの実績が少なかったため見込額を下回りましたが、補正予算編成後に複数名の任意退職者が出たことにより退職金支出が増加したため、予備費を7,100万円強使用し、決算額は26億3,000万円強となりました。

##### ② 教育研究経費支出

消耗品費等で経費節減に努めたこと、コロナ禍の影響で旅費交通費や海外派遣補助費の執行残が出たこと、各所修繕費の執行残が出たことにより減少となり、教育研究経費支出全体では、7,400万円強減少し、決算額は11億8,100万円強となりました。

##### ③ 管理経費支出

コロナ禍の影響により、旅費交通費等の執行残が出たこと、大学で学生寮の清掃料、保育園で給食委託費の予算を多く見積もっていたこと、創立記念行事費で寄付金の依頼を見送ったこと等により減少となり、管理経費支出全体では、1,300万円強減少し、決算額は4億9,000万円強となりました。

##### ④ 施設関係支出

「建物支出」で、烏山キャンパスの学内総合ネットワーク整備工事、附属高校のD棟202教室と職員室の空調更新工事、我孫子高校の本館高架水槽改修工事、二階堂幼稚園の園児用トイレ配管補修工事等がありました。「建物支出」で予算時の見込みよりも執行額が少なかったこと、「建設仮勘定」で（仮称）創立100周年記念体育館の関連工事（電気引込工事）の工期が令和5年度に変更となったこと等により、「施設関係支出」全体では、900万円強減少し、決算額は16億4,200万円強となりました。

##### ⑤ 設備関係支出

「教育研究用機器備品支出」では、烏山キャンパスで学内総合ネットワークの更新、南2号館の給湯設備更新、本館1階E102教室のレーザー液晶プロジェクター、附属高校ではC棟ネットワーク構築、我孫子高校では教室等のICT機器リプレイス等の支出がありました。予備費を200万円強使用し、決算額は7,800万円強となりました。

##### ⑥ 資産運用支出

補正予算において、退職給与引当金組入額の調整計算を誤っていたため、600万円強増加し、決算額は5億7,900万円強となりました。

##### ⑦ その他の支出

「前払金支払支出」、「前期末未払金支払支出」等の科目で、予・決算の差異が生じました。「その他の支出」全体では、予算と比較して3,300万円強増加し、1億2,700万円強の決算額となりました。

##### ⑧ 予備費

予備費1億円のうち、7,300万円強を「人件費支出」「設備関係支出」等に使用しました。

##### ⑨ 資金支出調整勘定

調整してマイナスする「期末未払金」が、予算と比較して4,000万円強増加し、「資金支出調整勘定」全体で△7,800万円強の決算額となりました。

##### ⑩ 翌年度繰越支払資金

以上の収支の結果、翌年度へ繰り越す支払資金（令和4年度末の現預金の額）は、51億1,900万円強となりました。これは、前年度末と比較すると23億600万円強の増加になります。

## 事業活動収支計算書について

令和4年度の事業活動収支計算書の概要は、次のとおりです。

事業活動収入は、教育活動収支で「学生生徒等納付金」「経常費等補助金」等が増加、「手数料」は入学検定料の伸び悩みから減少しました。また、教育活動外収支では「受取利息・配当金」が増加し、全体では補正予算と比較して6,500万円強の増加となり、決算額は48億1,800万円強となりました。

事業活動支出は、教育活動収支で「教育研究経費（消耗品費・修繕費・報酬・委託手数料等）」の執行率が95.6%にとどまったこと等により、全体では補正予算と比較すると9,000万円強減少し、決算額は47億9,700万円強となりました。

これにより、補正予算では「基本金組入前当年度収支差額」が、1億3,500万円強の支出超過となっていました。決算では、2,100万円強の収入超過となりました。「基本金組入額合計」は、△7,800万円強の組入額となりました。

この結果、当年度収支差額は補正予算では2億4,500万円強の支出超過を見込んでいましたが、決算では5,700万円強の支出超過となりました。

「前年度繰越収支差額」は、49億5,100万円強の支出超過でしたが、「基本金取崩額」30万円強を含めた今年度の決算（収支結果）を受けて、「翌年度繰越収支差額」は、50億800万円強の支出超過となっています。

## 貸借対照表について

令和4年度（令和5年3月31日現在）の貸借対照表の概要は、次のとおりです。

「資産の部」では、「建物」「教育研究用機器備品」で、烏山キャンパスで学内総合ネットワーク工事を行ったことや、「建設仮勘定」で、（仮称）創立100周年記念体育館建設工事に関する支払いを行ったこと等により、「有形固定資産」が12億3,100万円強増加しました。「特定資産」は、「2号基本金引当特定資産」や「減価償却引当特定資産」、「施設整備引当特定資産」が、（仮称）創立100周年記念体育館建設の支払いを行ったことにより、10億8,400万円強減少しました。このため、「固定資産」全体では、前年度末と比較して1億4,600万円強増加しました。「流動資産」は、（仮称）創立100周年記念体育館建設のために借入れを行ったことにより「現金・預金」が23億600万円強増加したこと等により、全体で21億8,100万円強の増加となりました。

この結果、「資産の部合計」は、前年度末と比較して23億2,700万円強増加し、311億100万円強となりました。

「負債の部」は、（仮称）創立100周年記念体育館建設のために借入れを行ったことにより、「長期借入金」や「短期借入金」が増加したため、「負債の部合計」は、前年度末と比較して23億600万円強増加し、46億9,300万円強となりました。

「純資産の部」は、（仮称）創立100周年記念体育館建設の支払いに充てたことにより、第2号基本金が減少、建設費の一部支払い等により第1号基本金増加し、「基本金」全体では7,800万円強増加しました。また、「繰越収支差額」は5,600万円強減少し、△50億800万円強となりました。

この結果、「純資産の部合計」は、264億800万円強となりました。

以 上